

## 製品・サービス動向-国内

## ■データバースト：今年設立のテレビ会議ベンチャー、フル HD 対応ビデオ会議サーバー「ビデオ会議ハブ VCH1」の提供開始

(取材：12月10日)

データバースト株式会社 (<https://www.databurst.co.jp/>) (静岡県浜松市) は、2018年8月にテレビ会議ベンチャーとして設立され、先月11月に、これまで導入に踏み切れなかった多くのケースに応え、フル HD の映像通信を普及することを目指したビデオ会議サーバー「ビデオ会議ハブ VCH1」の提供を開始した。



## 手のひらサイズのビデオ会議サーバー「VCH1」

VCH1 は、インターネット上で Windows や Mac パソコンを用いた多拠点の映像コミュニケーションや資料の共有が行える、手のひらサイズ、低消費電力(10W以下)のクライアントサーバー。フル HD の高品位な映像と音声を実現しているながら、基本的なデータ共有機能にシブすることで低価格を実現している。MCU (多地点接続装置) なしで最大 20 台 (拠点) の多地点会議

が可能となっている。

ビデオ会議のサーバーでありながら価格は 14 万 8,000 円 (消費税別)。「テレビ会議システム端末は昨今 20 万円程度のモデルも多数でてきたが、それを下回る 1 拠点分の費用以下で導入できる。またクラウド型の Web 会議サービスにおいても、一例だが、10 ユーザーで数万から 10 万円/月程度コストがかかるのが一般的だ。そういったことを考えると VCH1 の優位性が理解できると思う。専用端末、オンプレミス型 Web 会議サーバー、クラウド型 Web 会議サービスと比較しても低価格で提供できる。」(データバースト)

会社によると、この価格で製品化できた理由は、高性能の CPU を搭載した汎用の電子基板を採用したのがひとつと説明する。またそのソフトウェア側の開発は、玉井氏自身が開発したという。

実は玉井氏は、29 年間に開発エンジニアとして過ごしたヤマハ株式会社を昨年 10 月に定年退職して、今年このデータバーストを設立した。というのも、玉井氏は、PJP シリーズなどマイクスピーカーの開発にも携わったが、映像通信への思いは断ち切れなかったためだ。この 10 年間、個人的にもソフトウェア開発を自宅で少しずつ行ってきた、今回 VCH1 が誕生した。

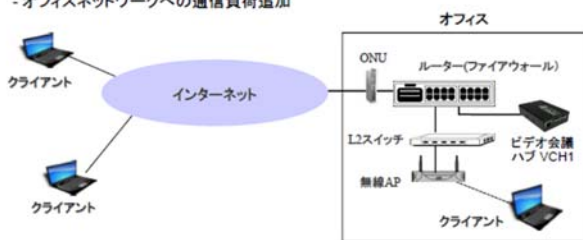
「搭載する機能についても、いろいろと検討したが、ユーザーの声を拾っていると、基本的な機能で十分という印象がある。VCH1 ではソフトウェアをビデオ会議サーバー用に専用設計し、機能を絞り込み、最適化、軽量化することでこの価格が可能になった。」(データバースト) 加えて、外装やデザイン、生産などについては地元のベンチャー企業との協業で展開している。

VCH1 は、HTTP ポート経由でアクセスできるところであれば使用可能で、ファイアウォールや HTTP プ

ロキシも通過可能（HTTP トンネリング）。公衆インターネットでも社内ネットワーク（DMZ）でも設置可能となっている。あるいは社内ネットワークとは切り離して光回線など専用に VCH1 用として使う方法もある。

#### ブロードバンドルーターにビデオ会議ハブ VCH1を接続

- 追加の回線費用等なし
- オフィスネットワークへの通信負荷追加



#### ビデオ会議サーバーVCH1 設置例（データバースト）

VCH1 の映像コーデックは H.264 と MPEG4 を搭載。最大フル HD（1920 x 1080）30 フレーム/秒に対応。また音声コーデックは Speex と Nellymoser を搭載し、サンプルレート 16 kHz から 44.1kHz まで対応している。

VCH1 は、MCU（多地点接続装置）なしで多地点が可能になっているが、それはシステム全体で MCU を代替する独自技術を施しているためだ。

専用 MCU では通常拠点数が増えるごとにサーバーで処理するデータストリームが増大するのが一般的だが、この VCH1 では、各パソコンのカメラ解像度を最適に自動制御するとともに、サーバーの通信帯域幅に合わせて映像データ量を細かく制御しているため、品質を保ちながら使用帯域を低く抑える仕組みになっている。加えて、ネットワークの状況に応じて音声データを優先するようになっている。

「これらの仕組みによってインターネットという不安定要素のあるネットワークでも快適な映像と音声のコミュニケーションが可能だ。」（データバースト）



VCH1 でのビデオ会議の様子--浜松市のデータバースト本社と船橋市にある CNA レポート・ジャパンオフィスと接続しているところ。クリアな映像と音声で問題なく会話ができた。

一方、資料共有については、パソコンの画面表示を共有する高精細な「画面共有」、ファイルをアップロードして共有する「ファイル共有」、自由に書き込める「ホワイトボード」、チャットや議事録としても使える「テキストボード」など基本的な資料共有機能が備わっている。

共有された資料は、主催者と参加者がだれでも矢印ポインタ表示や図形、文字の書き込みなどが可能となっている。また、ファイル共有においては、テキスト・PDF・静止画・動画・ZIP ファイルに対応しており、参加者による共有ファイルのダウンロードを禁止する設定もできる。会議時の暗号化通信 (SSL/TLS も可能) にも対応している。なお、会議資料は会議終了後に消去され VCH1 に残ることはない。

会議中は、多様な画面レイアウトが用意されており、テレビ会議システムのようにフル HD 映像を全画面表示したり、説明資料と説明する人の映像を並べて表示したりするなど、会議やセミナーなどの場面に応じて最適なレイアウトをその場で、画面下部の操作バーで簡単に選択できるようになっている。

会議を開催したり参加したりするには、パソコンで専用のクライアントソフトウェアを起動し、URL を入力して VCH1 と接続、ログイン画面が表示され、そこでユーザー名とパスワードを入力して会議室へ入室す

る形。ログインが成功すると直ちに会議画面が表示され会議が始められるようになっている。

ただし、VCH1 は1台で1会議室という使い方になる。複数の会議室を使用する必要がある場合は複数台のVCH1を購入する必要がある。

クライアントソフトウェアは同社のウェブサイトから無償でダウンロードできる。また、VCH1 にブラウザでアクセスしてダウンロードすることも可能。その他、管理者モードでVCH1 にアクセスしネットワーク設定やユーザー登録など各種設定が行えるようになっている。

「当社では、VCH1 の評価機を無償で貸し出している。是非VCH1を試していただきたい。すでに評価機を貸し出しているところが何社かある。」（データバースト）

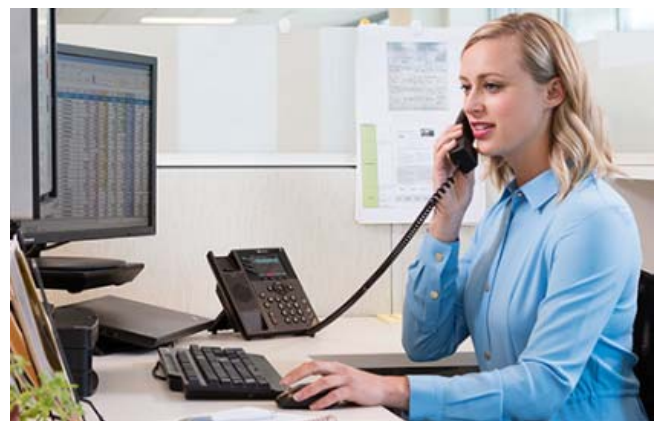
データバーストではようやくVCH1が完成したところ。これから営業展開を本格的に開始するという。テレワークや遠隔教育、コスト削減などを目的とした企業や教育機関などにVCH1を提案したいと考えている。現在は直販のみだが、そういった中で、ユーザサポートを拡充し、販売パートナーの開拓を進めつつ、3年間で2,500台の販売を計画している。また将来は海外展開も視野にあるようだ。

「当面は、iOS（スマートフォン/タブレット）対応を目指し、来年には実現したい。また、VCH1は基本的な機能に絞った製品のため、ハイエンドタイプの製品を開発したり、翻訳機能を搭載したりと、意欲的に取り組んでいきたい。」（データバースト）

## ■ポリコムジャパン：「Polycom VVX シリーズ」の新たなラインアップ発表

（12月4日）

ポリコムジャパン株式会社（<http://www.polycom.co.jp/>）（東京都新宿区）は、12月4日、「Polycom VVX シリーズ」の新たなラインアップを発表した。



Polycom VVX シリーズ使用イメージ（ポリコムジャパン）

Polycom VVX シリーズは、「Polycom HD Voice 技術」と「Polycom Acoustic Fence 技術」といった業界最高クラスの音質のほか、直感的なユーザインターフェイス、簡単な導入と管理といったところに特長がある。今回発表のビジネス用 IP デスクトップ電話機は、信頼性の高いパフォーマンスとエンタープライズレベルの音声を提供している。

ラインナップとしては、「Polycom VVX 150」「Polycom VVX 250」「Polycom VVX 350」「Polycom VVX 450」の4製品を提供する。2回線対応のエントリーレベルから、12回線対応モデル、そしてカラーディスプレイ搭載など、規模の大小にかかわらず経営幹部からナレッジワーカーまでさまざまなニーズに対応している。

また、Web ベースの設定ツールでインストールを簡素化しているため、管理者は全社にわたる多数の電話機のプロビジョニングを簡単に行うことができるよう

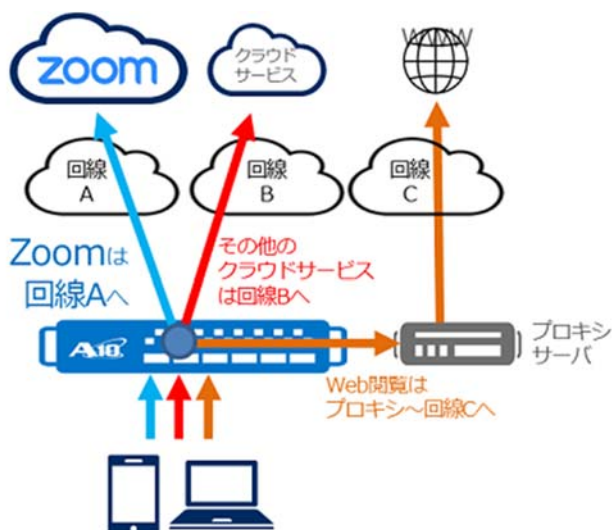
になっている。さらに、国際標準規格に準拠した幅広いオープン API により、サービスプロバイダーや IT 担当者による導入と管理が容易という。

発表の製品は、ポリコム認定販売代理店を通じて、12月4日より正式に販売開始する。

## ■ NEC ネットエスアイ：A10 を活用した Zoom 通信の最適化を実現する「Zoom トラフィック最適化ソリューション」の販売を開始

(12月10日)

NEC ネットエスアイ株式会社 (<https://www.nesic.co.jp/>) (東京都文京区) は、Zoom 通信の最適化を実現する「Zoom トラフィック最適化ソリューション」の販売を開始する。



Zoom トラフィック最適化ソリューション概要  
(NEC ネットエスアイ)

同社が提供している「共創ワークソリューション Zoom」と、A10 ネットワークス株式会社の「Thunder シリーズ」が提供するクラウドプロキシソリューションとを組み合わせたもので、Zoom トラフィック最適化ソリューションは、コミュニケーション品質とトラフィック最適化の双方を同時に実現するソリューション

である。

Zoom の利用にあたり、顧客環境に適したネットワークインフラを合わせて提供することが可能で、Zoom の通信を帯域に余裕のある回線に振り分けたり、プロキシサーバを迂回させることでコミュニケーションの品質を担保しつつ、「Office365」や「Windows Update for Business」、「BOX」などさまざまなクラウドサービスのトラフィックの最適化も同時に行える。

価格は別途お問い合わせ。参考価格は、500 ユーザー規模 (Zoom ライセンスは除く) で 300 万円 (税込み) からとなっている。

NEC ネットエスアイは、今後、本ソリューションを活用した拡販を進め、共創ワークソリューション Zoom 関連で、2018 年度売り系 10 億円の売上を目指す。

## 導入・利用動向-国内

### ■ キヤノン IT ソリューションズ：ニッセイ情報テクノロジー、テレワーク利用促進に向け Web 会議システム「IC3」を導入

(12月13日)

ニッセイ情報テクノロジー株式会社 (<http://www.nissay-it.co.jp/>) (東京都大田区) は、テレワークの利用を促進するため、キヤノン IT ソリューションズ株式会社 (<https://www.canon-its.co.jp/>) (東京都品川区) が提供する Web 会議システム「IC3」を導入した。

ニッセイ情報テクノロジーは、日本生命グループの情報システム構築で培った豊富な業務経験をベースに「保険・共済」「年金」「ヘルスケア」分野において、コンサルティングや、システム開発・運用、BPO などのサービスを提供している。

同社では 2014 年 9 月から、社員の「クリエイティブで効率的な働き方の実現」による生産性向上と新しい働き方の推進を目指し、トップダウンによる働き方改

革の取組みを開始し、2015年からは在宅型テレワーク勤務制度を導入している。

また2017年10月には、テレワークの利用促進のためにIC3のクラウドサービス版を導入し、社用スマートフォンを活用して、場所と時間にしばられない遠隔会議を可能にした。

社内制度上、社員約2,300名の約6割にあたる約1,300名が在宅テレワークを実施可能となっている。在宅テレワーク利用者は急増し、2018年9月には500名を超えた。

結果、IC3でいつでも打ち合わせが可能になり、「目の前にいない上司との意思疎通が難しい」「会議に参加する日は必ずオフィスに出勤する」というテレワークにおける当初の懸案であったコミュニケーション不足の解消につながった。

さらに、オフィスに全員が出勤しない場合でもIC3を使ってコミュニケーション不足を補うという新たな工夫も生まれ、連帯感の醸成および生産性の向上につながっている。

このような着実な推進活動とテレワーク対象者および利用者を大幅に拡大していることが評価され同社では一般社団法人日本テレワーク協会が主催する「第18回テレワーク推進賞」において「優秀賞」を受賞した。

キヤノンITソリューションズは、働き方改革におけるコミュニケーション不足の解消や場所と時間にしばられない柔軟な働き方を実現したいというニーズに対応していくとともに、より簡単に快適に使えるようIC3の操作性向上と機能強化を行っていく。また、Web会議システム環境の構築ノウハウを活かし、顧客に合わせた音声品質と映像品質の調整や周辺機器の提案を推進していくとしている。

企業のコミュニケーション活性化、コスト削減、働き方改革を進める企業に提案し、2020年までに新規に300社への導入を目指す。

事例詳細：

<https://www.canon-its.co.jp/products/ic3/case/>

PR

(広告掲載順)

## ■ヤマハ株式会社

USBスピーカーフォン FLX UC 500

[https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/flx\\_uc\\_500/index](https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/flx_uc_500/index)

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■ブイキューブセミナー情報（12月～2019年2月）

「働き方改革セミナー 失敗しない「Web会議」「テレビ会議」選び方徹底解説」「<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援!」「2分でかんたん動画作成 社内動画活用で働き方改革を推進!」など  
会場（東京・大阪・名古屋・福岡・Webセミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■手軽にはじめられるテレビ会議・Web会議システムのご紹介～RICOH UCSで、いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも繋がります!～

日時：12月26日（水）午後 1時間のセミナーを2回開催（同内容加）。

会場：リコージャパン 晴海トリトン事業所

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：

<http://www.ricoh.co.jp/event/seminar/18S131.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jpサイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

### ■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

### ■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

### ■メーリングリスト（dtc-forum）

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

## 定期レポートバックナンバー

### ■PDFファイル版（1号毎PDFファイル）

>2003年～2018年最新号（1号毎PDFファイル）

<http://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

### ■電子ブック版（複数号まとめているのもあります）

>2003年-2013年：

[http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_report/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/)

>2014年-2017年：

[http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_ebook/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/)

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

## 編集後記

おかげさまで、今年も1年間無事に23回定期レポートを発行させていただきました。読者の皆様ありがとうございます。

12月末については例年お休みをいただいておりますので、次号は来年1月15日号からスタートします。

実は来年12月でこの定期レポートは1999年12月に創刊して以来20周年を迎えます。振り返ればあっという間の20年でした。まだまだ至らないところが多々あるかと思いますが、皆様からのご意見などいただきながらこれからも少しずつでも改善していきたいと考えております。

少し早いですが、良い年をお迎えください。また来年も何卒宜しくお願い致します。

CNA レポート・ジャパン 橋本啓介

**CNAレポート・ジャパン 2018年12月15日号おわり**

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: [cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)